

平成29年度第1回総合教育会議

子どもの貧困対策について

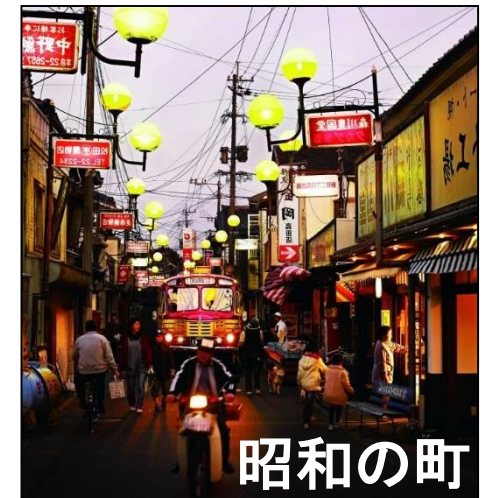
4 土曜学習の取組について ②豊後高田市研修視察報告

平成29年11月15日
都城市教育委員会

豊後高田市の取組の紹介

大分県豊後高田市

- 人口 約2万3千人
- 面積 約200km²
- 小学校10校、中学校5校
小中一貫校1校、高等学校1校
- 児童生徒数 約1,550名



「学びの21世紀塾」の取組

学力の低下が懸念される中、子どもたちに確かな学力の定着や体力づくりの機会を提供し、地方の子どもも都会の子どもも、また、どのような家庭状況の児童生徒であろうとも、**学習機会や場を平等に保障して、あらゆる格差をなくしていく**ことを目的に開塾した。

子育て世代に広がる移住

学びの力で 地方創生

⑩

するかどうかは本人と各家庭の考え次第だ。もともとは市内の子どもたちに、土曜日学習の場を提供するところが目当てだ。

10年あまり前に始めたばかりのころ、県内の学力調査の結果、豊後高田市は23郡市のうち、22番目だった。近年は最高水準を保つ。

学習会がない土曜日には、公民館を中心に、音楽、スポーツ、料理、農業などの講座を設けた。平日や長期休業期間中にも学習会を開いている。知育、徳育、

体育の全てにわたって、子どもたちを伸ばそうと試みを重ねてきた。そんな豊後高田市に住まいを移して子どもを育てる世帯が増えている。

東京・有楽町で一連の相談会を開いている認定NPO法人ふるさと回帰支援センター。その広報誌によると、10年ほど前まで「団塊の世代」を主な対象にふるさとへの回帰を支援してきた。

転換点は2回あったという。1回目は平成20年のリーマンショック。安定した雇用が揺らぐ中、若者の視

線が大都市部から地方へと向かうようになった。

2回目は23年の原子力災害。東日本から西日本へと居を移す流れが出てきた。移住は、退職後の選択肢にとどまらず、子育て中の世帯も考えるようになったという。「100万人のふるさと」26年早書号。

豊後高田市への移住が盛んになった時期も似ている。同市は18年に「空き家バンク事業」を始めた。市内の空き家に関する情報を一覧できるように集め、移住を希望する人が借りたり買ったりしやすくする仕組みだ。契約した世帯数は年間で多くて10世帯という年が続いたが、23年度には20世帯に増え、26年度は42世帯が契約した。

当初は九州の各県からの移住が多かったが、過去9年間に移住した人全体で見ると、半数近くが九州以外となった。年齢構成も20代から40代までで過半数に達する。

豊後高田市では「移住」ではなく、長く暮らしても入れる「定住」の促進に力

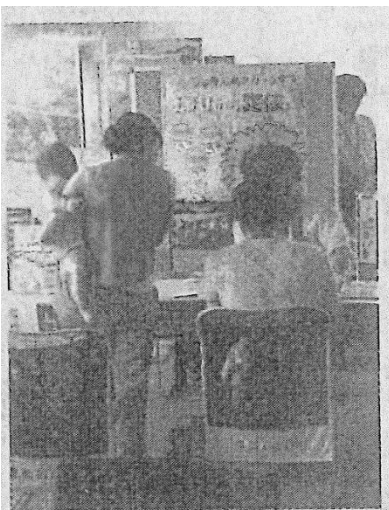
を入れてきた。住居に加え、雇用の確保にも重点を置く。これらは人口減少に悩む地域の多くが既に試みているが、豊後高田市は「教育」が切り札となる。

豊後高田市職員で、移住に関する相談に各地で乗ってきた田口英利さんによると、教育が充実していることを知った上で、豊後高田市への移住を考える人が増えているという。(終わり)

東京・有楽町のビルでは週末になると全国各地への移住に関する相談会が開かれる。炎天下にもかかわらず今月8日の土曜日は、大分県への移住に関心を持つ人たちが会場を埋めた。目当ての一つが豊後高田市。土曜日の教育活動を充実させるなどして児童・生徒の学力水準は県内最高水準になるとともに、視察した下村博文文科相が土曜授業の理想像の一つとして全国に紹介するようになった。この日も幼児を抱きかかえた夫婦が市職員の説明に聞き入っていた。

小学校は11校、中学校は6校ある豊後高田市。2週に1度の土曜日には、学校をはじめとする公共施設で学習会を開く。学校の教員、市役所の職員を含め、さまざまな立場の人が講師となって小・中学生の学習を手伝う。

授業ではないため出席日数には数えていない。参加



大分県への移住を考える夫婦と相談に乗る豊後高田市の職員(今月8日、東京・有楽町で)

4 豊後高田市の取組の紹介

「学びの21世紀塾」の取組

1 いきいき寺子屋活動

2 わくわく体験活動

3 のびのび放課後活動

4 まなびのひろば

5 学びの21世紀塾市民講座

6 高校生のための学びの21世紀塾

①土曜日講座・・・小学生や中学生

②水曜日講座・・・中1・2

③夏季・冬季特別講習・・・中3

④ステップ・アップ講座・・・小1～小6

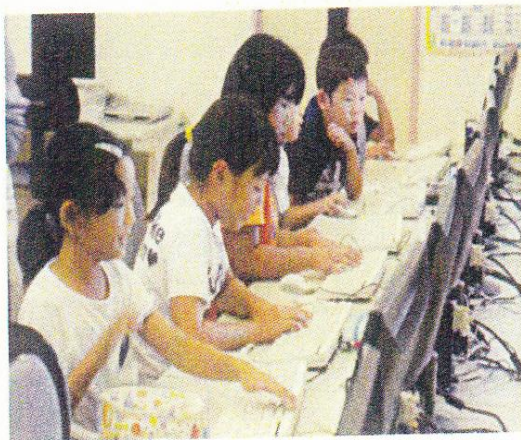
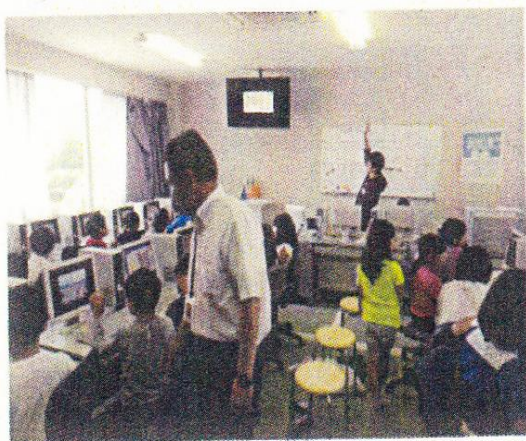
⑤放課後寺子屋講座・・・小学生

⑥テレビ寺子屋講座・・・小・中学生

パソコン教室(小学校のパソコン教室)

毎月、第1・3・5土曜日の9時から12時の間に開講しています。

市内6会場(桂陽小、河内小、都甲小、田染小、真玉小、香々地小)で、小学生を対象に講座を行っています。



1、2年生
3、4年生
5、6年生
と午前中に
3クルーが走る

市役所の若い職員
コンピュータが得意なので
指導員の一人として参加



水曜日を除く毎日（子どもの居場所と家庭学習）

午後4時～午後5時半まで、学校の帰りに来て宿題や自分の好きな勉強をする。

「放課後子ども教室」「放課後児童クラブ」とは別である。

勉強の困難な子どもも来ているが、指導者が丁寧に指導する。複数の指導者がいる。

*会場・・・寺子屋「プラチナ館」

福祉事務所プラチナ支所（玉津銀鈴堂内）

*講師・・・教員OB・放課後学習指導員・高校生



友だちとともに学ぶ喜びをしっかりと共有できる雰囲気

各学校では、
（学年×10分＋10分）
の家庭学習を義務
付けている。

自分で好きなだけ
勉強したら自由に
帰る。



指導講師以外に
3人の指導員



学びの21世紀塾
中学生 数学

午前中、部活や少年スポーツ団の
活動は中止。
活動は午後から



(1) 週末子ども育成活動

料理教室、太鼓教室、スポーツレクリエーション教室、環境美化教室等の地域の大人と子どもが触れあひながら行う、体験活動的な事業。放課後子どもプラン事業を合わせて実施。放課後児童クラブと合同で活動し、子どもの健やかで安全な居場所とする。

※ 実施場所 中央公民館、真玉公民館、香々地公民館、河内公民館、都甲公民館、西都甲公民館、草地公民館、呉崎公民館、田染公民館、水崎公民館、高田小学校

※ 実施時期 5月～2月 第2・4土曜日 (or 水曜日の午後)

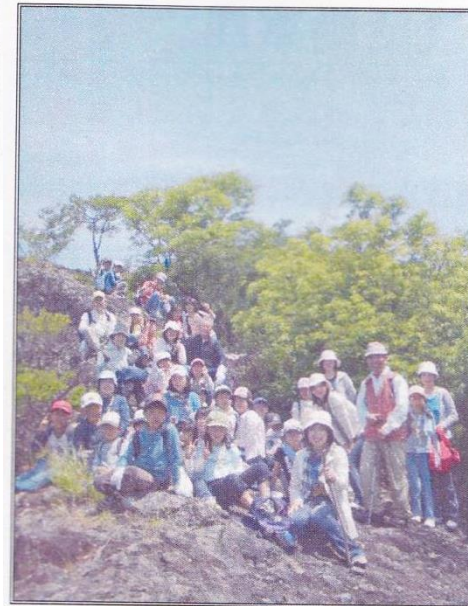


フラワーアレンジメント

平成27年度の実績

11会場 延	131回
参加者 延	2,540人
指導者	85人
安全管理員	18人
協力団体	13団体
ボランティア	12人

公民館が中心となって 地域の方々のボランティア



登山体験活動



竹とんぼづくり体験活動



魚のさばき方体験活動

◆地域とともにある学校づくりに必要なこと◆

熟 議

関係者がみな当事者意識をもち、目標・ビジョンを共有するための熟慮と議論を行う。

協 働

学校運営に地域の人々が「参画」し、共有した目標に向かってともに「協働」して活動していく。

マネジメント

中核となる学校は、校長先生のリーダーシップのもと組織としての「マネジメント」力を強化する。

